



2026年6月25日、「みやぎSDGs塾」=？=第5ターム後期2回目の講座が河北新報社で開催されました。参加者は他社や自治体のSDGs関連の取り組みを通じて学びを深めました。

標準コース

SDGs活動を通じ地域と連携 ～山一地所～

第5ターム・後期の第2回の講座となった「みやぎSDGs塾・標準コース」では、宮城県内に本社を置く企業の社員が、それぞれの所属先の取り組みについて紹介しました。

多方面で全社的な取り組み

仙台市泉区に本社を構える山一地所(総合不動産業)の蔡宜静さんは、同社が実践する以下のようなSDGsの取り組みについて紹介しました。



山一地所の取り組みを紹介する蔡宜静さん

山一地所では、本社や支店など全拠点の電力を、自社が保有する太陽光発電施設によって賄っています。2024年に完成した新社屋の屋上に太陽光パネルを設置しているほか、拠点から離れた施設で発電した電気を利用する仕組みを作っているのが特徴です。加美町の水田には、上部に太陽光発電パネルを配置し、その下で稲作もできる営農型太陽光発電所を設置しています。

また、ペットボトルのキャップを集めてリサイクル業者に引き渡すと発展途上国の子どもたちにワクチンを届ける活動への支援になる「エコキャップ運動」や、使用済み切手を集めて障害者支援団体に寄付する活動などに全社で取り組んでいます。

地域とのつながりを重視

山一地所の取り組みの多くに見られるのが、地域との関係性です。本社

がある泉区の住民団体と連携して定期的に地域の清掃活動に参加するほか、新社屋では災害時に地域住民に提供できるように食料を備蓄しています。先述の営農型太陽光発電所では、停電時に周辺住民に電力を提供する協定を加美町と結んでいます。蔡さんの話を聞いた参加者からは、「自社でも提案すれば実現できることがあるかもしれない」などの感想が聞かれました。



蔡さんの発表後、意見や感想を話す「みやぎSDGs塾・標準コース」参加者

実践コース

宮城県の施策目標の達成状況を知ろう

「みやぎSDGs塾」で活用しているオリジナル教材「考えるドリル」には、SDGsの17の目標に対応する宮城県の施策目標が掲載されています。今回の「みやぎSDGs塾・実践コース」では、県の施策目標と達成状況について、県総合政策課の野知里優希さんに話を聞きました。



宮城県の施策目標の達成状況について話す野知里さん

県職員・野知里優希さんに聞く「SDGs後」に向けたディスカッションも



「『総合計画』に掲げられた施策を進めるため、具体的な項目ごとに目標を設定して達成度を算出している」と説明。「考えるドリル」に掲載されている項目を例に挙げ「再生エネルギーの導入量」や「農業産出額」は目標値を超え「達成度A」であるのに対し「男性の育休取得率」は「達成度D」となっている、などと解説しました。野知里さんは「県の目標や評価と自社の現状を照らし合わせ、日々のSDGs実践のヒントに活用してほしい」と話しました。またこの日の参加者は、SDGsの「ゴール」とされる2030年以降についても意見交換。「SDGs」という言葉が若い世代に浸透している。大切にしていけるべき「別な言葉に変わることで、あらためて注目され、新たな取り組みが生まれていく可能性もある」など、多様な考え方が示されました。

標準コース

地元企業の取り組み事例に耳を傾ける バイオ燃料で持続可能な地域社会を ～エネサンス東北～

廃食用油を燃料に再利用

LPガス販売などを営むエネサンス東北の大井川ありすさんは、バイオディーゼル燃料(BDF)に関する同社の取り組みについて以下のように紹介しました。

BDFは植物油を原料として精製されるディーゼルエンジン用の燃料です。燃焼時に排出される二酸化炭素はもともと植物が光合成によって大気中から吸収したもので、実



エネサンス東北の大井川ありすさん

質的に二酸化炭素排出がゼロになる燃料として注目されています。エネサンス東北では揚げ物などに使われた食用油から作られたBDFを業務車両の燃料として導入しています。BDFを導入したのは、同社古川支店のLPガス配送車両8台のうち3台。大崎市古川の千田環境ホールディングスが精製したBDFを今年6月から使用しています。

大井川さんはこの3台へのBDFの導入により年間の二酸化炭素排出量を1.32トン削減できるとの試算を示し、「古川支店の残りの5台、さらには他の支店の配送車両にも導入していきたい」と話しました。

また大井川さんはBDFの材料となる廃食用油について、「地域の飲食店や家庭などから弊社が回収して千田環境に届ける体制を整え、BDFを通じて地域の連携を深めていきたい」と展望を話してくれました。

参加者の声

社内で話し合う機会に

タイハク 白井泉水さん

「みやぎSDGs塾」で学んだ他社の事例を自社内で紹介することが、自分たちの取り組みについて見直したり、それ以外にできることがないかを話し合う機会になっています。



他社の発表や参加者どうしの交流から得た気付きや学びについて伝え合うメンバー

SDGsとうほくコラム

SDGsをマーケティングの視点から回顧する

SDGsとうほく アドバイザー(株)深松組 内海睦夫さん



唐突ですが、高度経済成長期以降のマーケティング・イメージを振り返ります。1960〜70年代にかけてはそれまでの「モータリゼーション」から「ビューティフル」へ、ライフスタイルとしては「ニューファミリー」が台頭し始めた時代です。80年代のバブルを経た反動で90年代は「ナチュラル」で柔らかな「エコロジー」な時代になります。

21世紀初頭のキーワードは「エコ」から「LOHAS」に取って代わり、このあいまいな認識だったものが、2010年代にはSDGsという取るべき行動指針として明確にされたのです。いまでは義務教育で体験し、学ぶようになってい



賛同企業
募集中!!



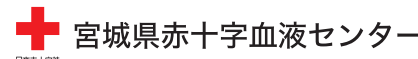
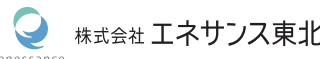
【申し込み・問い合わせ】
河北新報社営業局
TEL / 022-211-1318
MAIL / koukoku@po.kahoku.co.jp

公式HP

第5ターム参加者(敬称略)

【荒町商店街振興組合】庄子康一【YES工房】大森丈広【SKホールディングス】エネサンス 大井川ありす、高橋里奈【エントワデザイン】佐藤寛和【オフィス塩竈】加藤貴伸【環境再生保全機構】キューアンドエー 柴田知和、守屋利都子【国分東北】佐藤理紗、小笠原有歩【大日本印刷】阿部巧、小泉一也、矢島迅人、大沼眞洋、花村祐太、野口遼南【タイハク】山田妃那、及川達也、白井泉水、永坂舞【日建リース工業】加島重信【日本旅行東北】櫻井寛也、渡辺隆太郎【宮城県赤十字血液センター】庄子いくみ【宮城県民経済生活協同組合】田仲俊貴、西條諒佑、久松紗和、石倉新太郎、石田涼香、加藤明日菜【みやぎ生活協同組合】金田志保【ミライツ】鈴木圭介【山一地所】鈴木瑠里、蔡宜静【WACO CREATE】岩村和哉、岩村優香【仙台高等学校】渡部真路【尚絅学院大学】内田和希【オブザーバー】紅邑晶子、高浦康有

賛同企業・団体・個人



特別協力 SDGsとうほく 協力 宮城県 JICA東北 荒町商店街振興組合 YES工房 オフィス塩竈 WACO CREATE 仙台高等学校 尚絅学院大学SDGsセンター